

沖縄考古学会 10 月定例研究会案内

2016 年 10 月 21 日(金) 19:00～20:30

於：県立埋蔵文化財センター研修室

発表タイトル：

沖縄の大陸系「磨製石斧」について

発表者：下條 信行(愛媛大学名誉教授)



縄文晩期後半、韓半島南部より水稲栽培が伝わるが、その技術的基盤の一つとして、抉入石斧―扁平片刃石斧―鑿形石斧の片刃の加工石斧や石庖丁・石鎌の収穫具も伝来する。これらを大陸系磨製石器と言うが、在来の伐採石斧と組成して農耕発展に寄与し、やがて各地に拡散すると、上記組成からの脱落や変容が生じるが、それでも水稲栽培は可能で、石器組成も再び

元に戻っても行く。沖縄にも大陸系の鑿形石斧や柱状片刃石斧が出土している。これらを農耕がらみで評価しようとするなら、①組成論として位置付けられるか、②他の石斧の型式発展の度合いの評価が肝となる。

【発表者：プロフィール略】

1969 年 3 月：九州大学大学院博士課程中退	1986 年 4 月：愛媛大学法文学部教授
1969 年 4 月：福岡市教育委員会文化財専門職	〃 6 月：埋蔵文化財調査室長併任
1975 年 4 月：九州大学文学部助手	
1979 年 10 月：(財)古代学協会・平安博物館 (講師・助教授)	2007 年 7 月：東アジア古代鉄文化センター教授併任
1984 年 4 月：西南学院大学文学部助教授	2008 年 3 月：定年退職
1985 年 4 月：愛媛大学法文学部助教授	

【石器関係著書】

下條信行 2008『大陸系磨製石器論―下條信行先生石器論集』
下條信行 2011『東アジア磨製石器論』書景文化社(韓国版)
下條信行監修 2014『列島初期稲作の担い手は誰か』すいれん舎